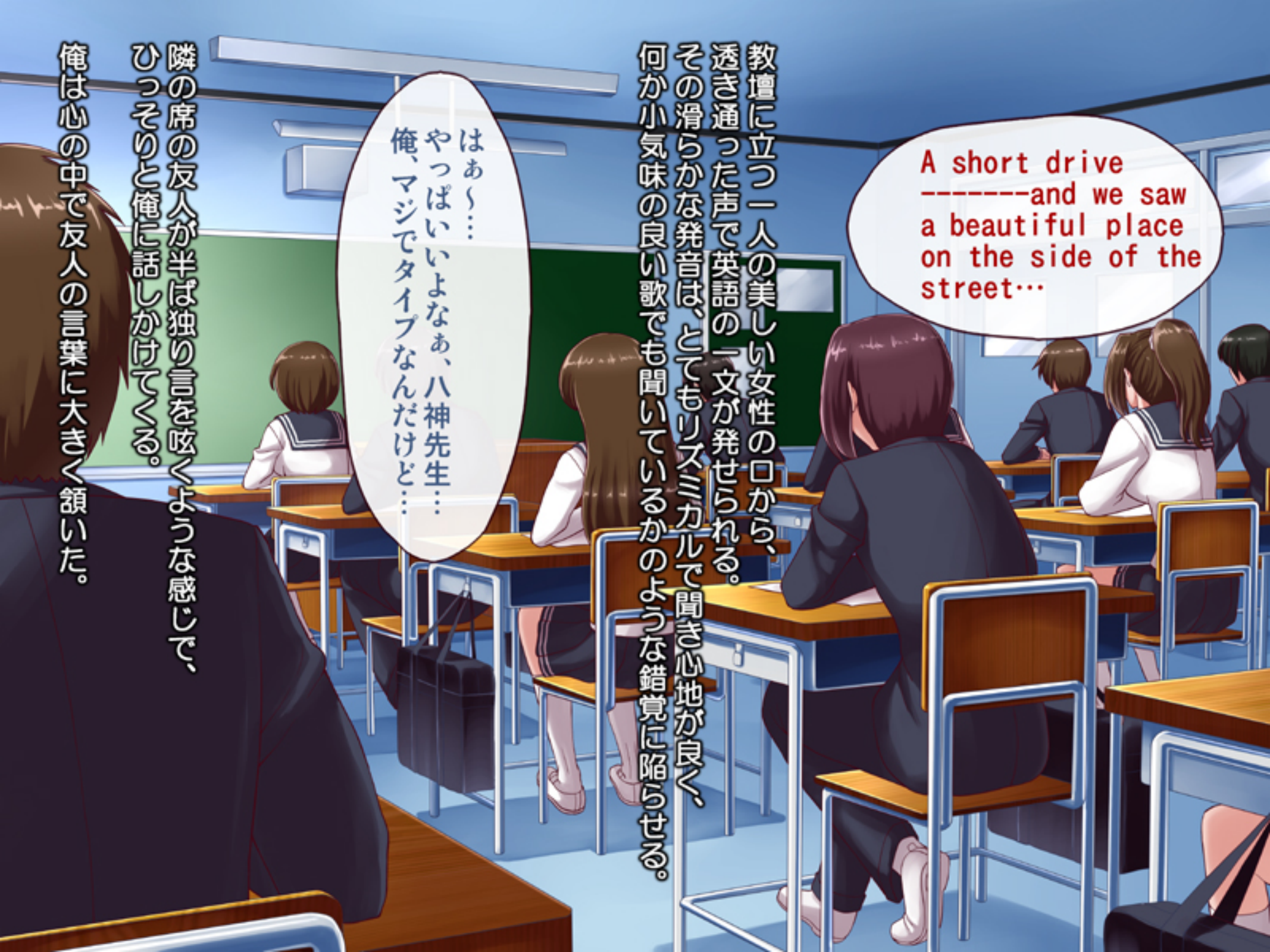

A short drive
--------and we saw
a beautiful place
on the side of the
street…
教壇に立つ一人の美しい女性の口から、
透き通った声で英語の一文が発せられる。
その滑らかな発音は、とてもリズミカルで聞き心地が良く、
何か小気味の良い歌でも聞いているかのような錯覚に陥らせる。
はぁ～…
やっぱいいよなぁ、八神先生…
俺、マジでタイプなんだけど…
隣の席の友人が半ば独り言を呟くような感じで、
ひっそりと俺に話しかけてくる。
俺は心の中で友人の言葉に大きく頷いた。

教壇に立つこの女性は八神エリ先生。
今年、教師になったばかりの新任の英語教師だ。
隣の席の友人に限らず、恐らく彼女とすれ違う男の
百人中九十九人は振り返って彼女を目で追ってしまうだろう。
下手なモデルなぞ比べものにならない美貌とスタイルの良さ。
見るからに理知的で、あまりの美しさに
一見少し近寄りがたく見えるが、
その実、とても優しくて気さくで人当たりも良い。
この学校の男子生徒全ての憧れの的と言っても過言じゃなかった。

あ～先生、彼氏とか居るのかなぁ
あんな人が彼女だなんて
羨ましすぎんだろマジで…
そうだな…っていうか
お前は七瀬と付き合ってんだろが
そんな事言っていいのか？
だ、だから
俺はアイツの
罠に嵌って…!!

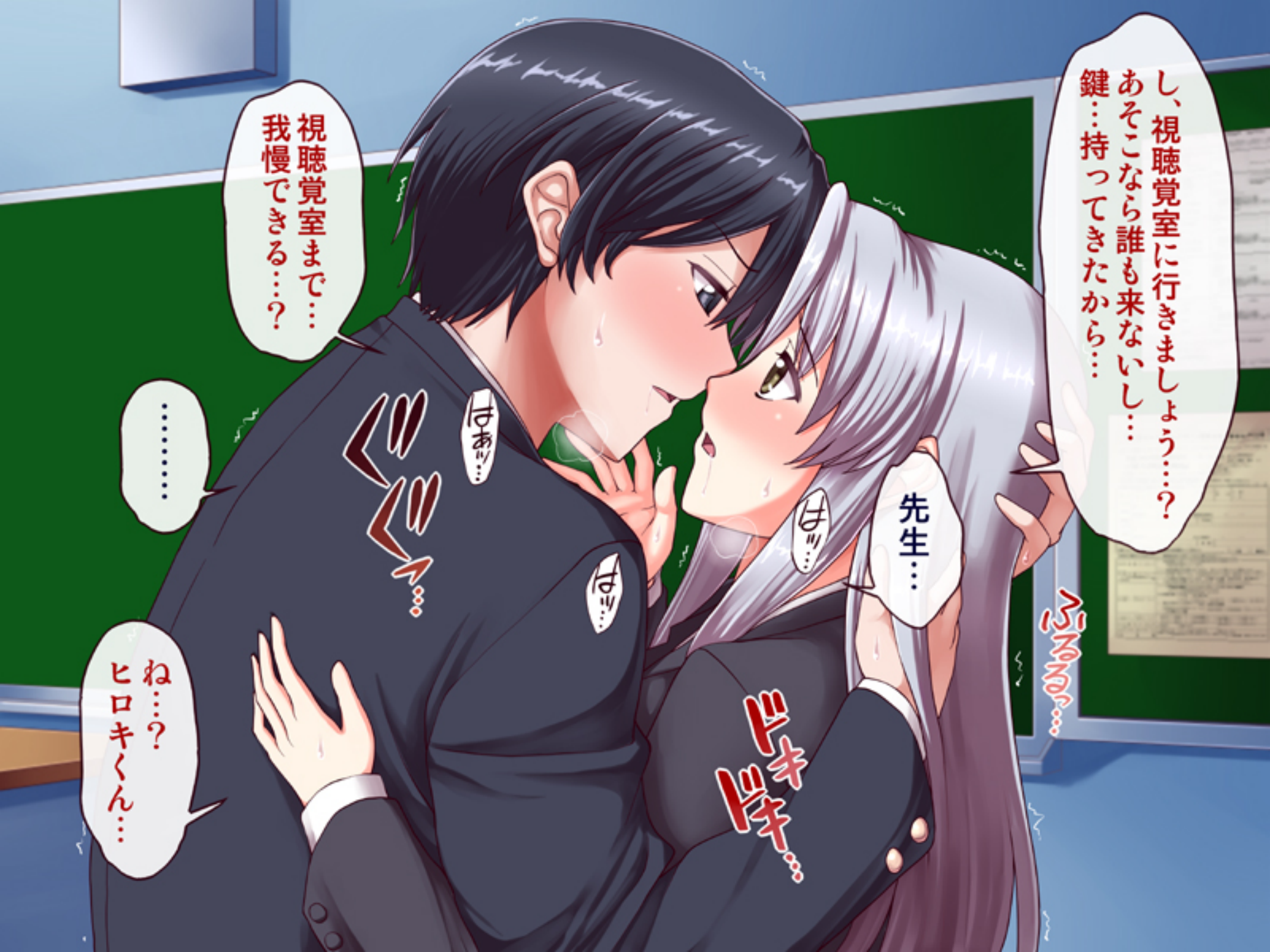
彼女持ちの友人が俺からのツッコミに少し声を荒げてしまい、
何やら俺まで先生に注意されてしまった。
俺と友人の二人からの謝罪に、先生は少し呆れたように溜息をつく。
そんな溜息をつく先生のちょっとした仕草までもが、とても優雅で、
艶やかで…教室内の男子生徒の何人かが、思わず息を漏らす。

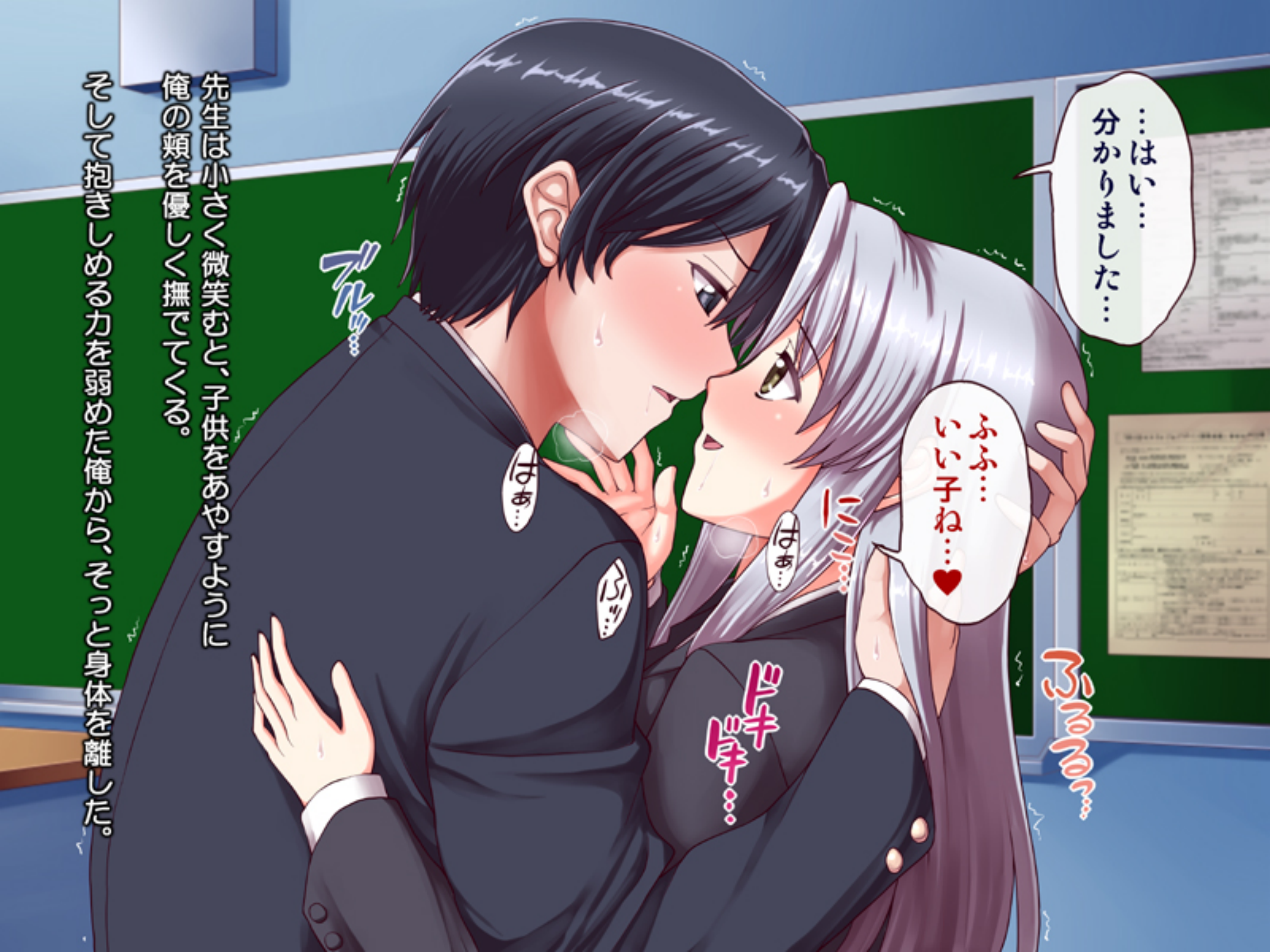
そんな男なら誰もが憧れる、この先生の彼氏というのは…
実は俺だったりする。
んっ…
はあっ…
ヒロキくん…
先生…
エリ先生…

放課後…
俺は生徒の大半が帰宅し、校舎内に人が居なくなった頃合いを見計らって、先生を教室に呼び出す。
俺は教室にやってきた先生を有無を言わさず抱きしめると、そのまま先生と唇を重ねた。

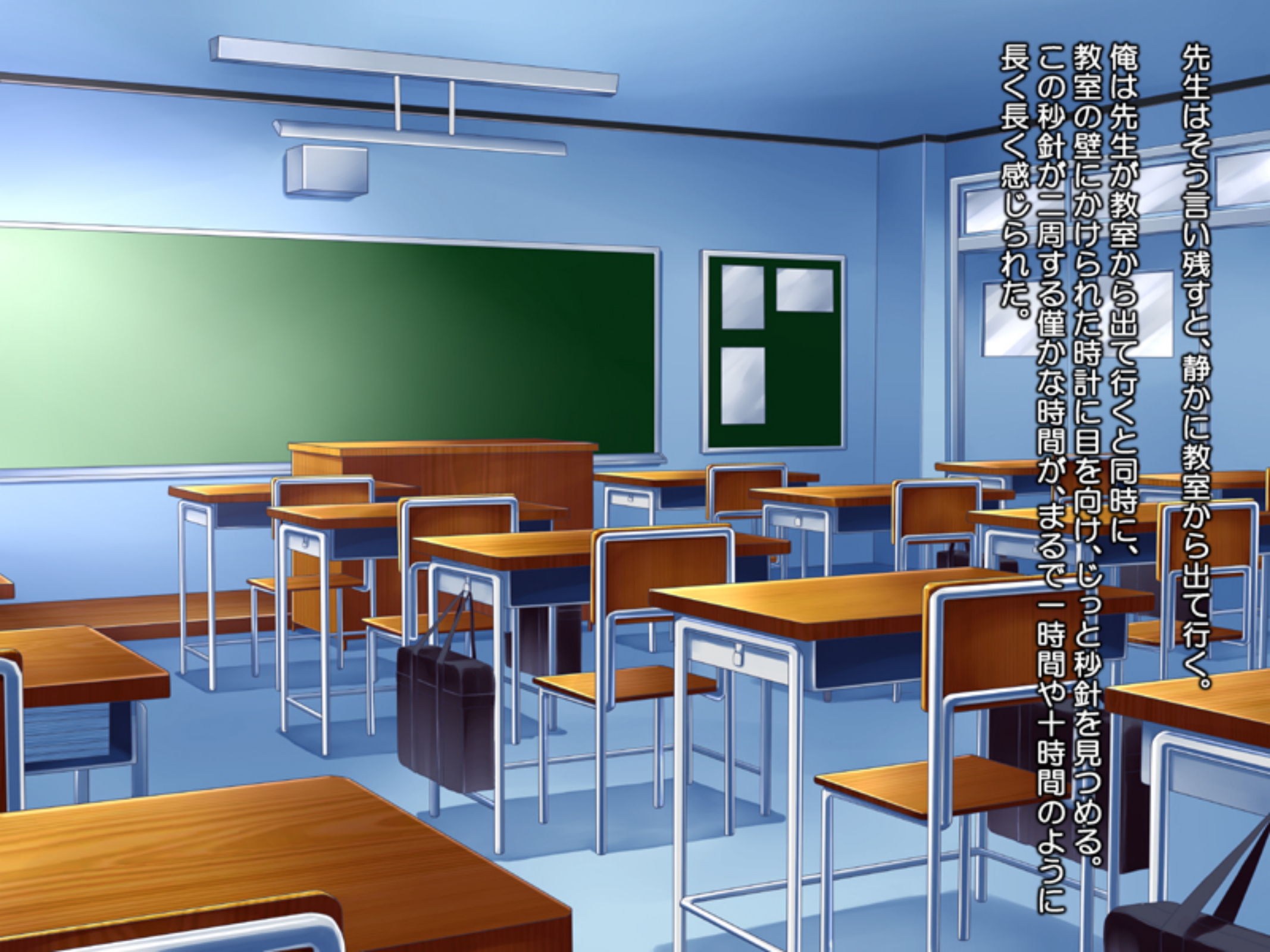
俺達は2人きりの時は、お互いに名前で呼び合っている。
俺自身も、以前は先生に憧れを抱く
有象無象の男子生徒の中の一人だった。
だが、どうしても先生に対する想いが抑えきれず、
いつしか俺は先生に自分の気持ちをぶつけてしまった。
先生は初めは俺を拒んでいたものの、
やがては教師と生徒という垣根を越え、
俺を恋人として受け入れてくれたのだった。

先生…!!
俺はもう我慢が出来ず、このまま先生を押し倒そうとする。
ヒ、ヒロキ君…!
ここじゃダメよ…!
誰か来てしまうかも…
先生…!
でも俺…!!
はぁッ…
はぁッ…
あッ…
ドキドキ…
フルフルッ…
グッ…


し、視聴覚室に行きましょう…？
あそこなら誰も来ないし…
鍵…持ってきたから…
視聴覚室まで…
我慢できる…？
……
ね…？
ヒロキくん…
先生…
はぁッ…
はッ…
はッ…
ぐぐぐ…
ドキドキ…
ふるるっ…


…はい…分かりました…
ふふ…いい子ね…♥
ふるふる…
ニヤ…
ドキドキ…
はぁ…
はぁ…
ふぅ…
ブル…
先生は小さく微笑むと、子供をあやすように俺の頬を優しく撫でてくる。
そして抱きしめる力を弱めた俺から、そっと身体を離した。

一緒に行ったら怪しまれるから…そうね…2分くらい経ってから来て…？
はぁッ…
はぁッ…
ふるるっ…
どきどき…
はい…エリ先生…
ん…それじゃあ…



先生はそう言い残すと、静かに教室から出て行く。

俺は先生が教室から出て行くと同時に、教室の壁にかけられた時計に目を向け、じっと秒針を見つめる。この秒針が二周する僅かな時間が、まるで一時間や十時間のように長く長く感じられた。

俺は秒針が二周し終えるのを待ちきれず、
一周と四分の三が過ぎた所で教室を出て、
足早に視聴覚室へと向かう。
視聴覚室は校舎の端の方に位置する、
普段は殆ど使われていない教室だ。
防音機能も備わっているから声も外に漏れないし、
ここならまず誰も来る事はない。

視聴覚室の中に入ると先生が俺を待っていた。
俺は扉に鍵をかけると、半ば襲いかかるように
先生に抱きつき、先生を押し倒す。

あっ…！
ヒロキくん…！

先生は抵抗する間もなく、されるがままに俺に押し倒され、
俺に服を剥がされていく。
そして先生の魅惑的な肢体が露わになっていった。

ああっ…！
はああっ…!!
先生…！
先生…!!
ジグジグ
あッ♡
はあッ♡
ちゅっ
ちゅぱっ
ちゅるっ
ぢゅっ…
ぢゅむっ…
びくんっ
びくんっ
びくっ
びくっ

もうっ…！
また、こんな学校で…
私を求めてきてぇ…！
ヒロキくんのバカ…
バカぁ…!!
先生がいけないんですよ！
先生が魅力的すぎるから…
先生がエロすぎるから…
だから俺は…!!
くうぅ…！
ヒロキくん…!!
ぐぐぐ…
ふぅ…
ふぅ…
ちゅっ…
ちゅぱっ…
ちゅるっ…
ぎゅっ…
はぁ♡
はぁぁ♡
ぎゅん
きゅん
ビクッ
ビクッ
ビクッ

はっ…！
はうぅ…！
ヒロキくん…！
そんな、胸、ばっかり…!!
先生のおっぱい…
なんでこんなに
柔らかくて…大きくて…
こんなにエロイんですか…
まったく…!!
あくぅ…！
ヒロキくん…
ヒロキくん…!!
ぐぐッ…!!
ぶるッ…
ぶるッ…
れろ
れろ…
ぎゅ
ぎゅ
はうッ
ああッ…
ぎゅ
ぎゅ
びくんっ
びくんっ
きゅん
きゅんっ

ああ…先生のここも
もうこんなに濡れてる…
いやらしい先生だなぁ…
あひっ!?
そ、そこ触っちゃ…
ダ、ダメ…!!
ヒ、ヒロキくん…!
はうぅっ…!!
ビクンッ
ビクンッ
はぁあぁ
ちゅぱ
ちゅぱ
ふぅ
ふぅ
すっ…
クニクニ
ビクッ
ビクッ
ビクンッ
ビクッ

こんなに下着を濡らして…
やぁ…！クニクニしちゃ…くううっ…！だ、ダメだってばぁ…！
俺のチンコ欲しがってるエリ先生…凄く可愛い…
ひくうッひうッ！ヒロキくん…！
ぐっ…!!
ふーッ
ふーッ
はむ
はむ…
はぁ♡
はぁ♡
ぎゅぎゅッ
ぎゅぎゅッ
ぴくんっ
ぴくんっ
ぴくぴくっ
くにくに
くにくに
トロォ…

今からエリ先生の大好きな俺のチンコ、エリ先生のココに入れてあげますからね…？
はっ！ はうっ…！ ヒ、ヒロキくん…！
こんなに濡らして… 物欲しそうにヒクヒクしてる… 先生の…ココに…
あふぅ…！ ヒロキくん…！ ヒロキくん…！
ぞくぞくっ
ぞくっ
ふーッ
ふーッ
はぁあぁ
はッ
ひくんっ
ぐにぐに

ぐぐッ
ぐぐッ
ああ…ッ！
ビクンッ
ビクンッ
ぷぷぷぷぷぷ…
グッグッ
はぁぁぁ♡
先生…！
ビクンッ
ガクガク

あっ…
ぅあっ…！
ヒ、ヒロキくん…！
ふ、深いぃぃ…！
あぁあっ…！
はぁっ！
先生…！
エリ先生…！
びくんっ
びくびくっ
ガクガク

んあっ！
はんっ！
ヒロキく…！！
はぐっ！
はひっ！！
ぐぽっ
ぐぽっ
じゅぽっ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ぞくっ
びくっ
ぞくっ
びくんっ
ああッ♡
あッ♡
はぁあッ♡
ブルッ
ブルンッ
ブルッ
ひんっ！
ひゃんっ！
あはんっ！！
はあっ…先生…
学校で…教え子に
後ろから突かれて
喘いでる…
ガクガクッ
ガクガクッ

ヒロキくんッ！ヒロキくんッ！ふぁああっ！
先生ッ!! どうして こんなに淫乱なんですか エリ先生ッ!! このっ！ このっ!!
うあッ♡
ビクビク ビクン
あぁッ♡
はぁあぁあッ♡
ブルンッ
ぐちゅッ
ズチュッ
ガクガク
あひっ！ヒロキくんが…ヒロキくんが私をこんなエッチにしちゃったんじゃないのよぉっ！
はぁっ！ ああっ…んはっ…ああっ!!

はっ！ はあッ!!
エリ先生ッ…!!
せんせえッ…!!
うぁ！
あはッ！
ひいッ!!
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
パン
パン
ドン
ドン
ズン
ズン
ズン
ズン
ああああ♡
そんなにぃ…
ううっ！
ズンズン突いちゃ
ダメェ…!!
くううう…!!
ああっ！ イクッ！
イッちゃうう！
はひいいっ!!
ガクガクッ
ガクガクッ

くああッ…!!
んあああああッ…!!
ガクガク
ガクガク

はっ…はあっ…！せ、先生…ううっ…!!
ヒロキ…く…あ…ああ…
ビクンっ
ビクッ
ビクビクッ
はぁ♡あ♡
はぁあ…♡
うあ♡
ビュッ
ビュルルッ
ビュッ
ぶるっ
ぶるるっ
びくっ
びくっ
ああ…出て…るぅ…ヒロキくんの…あはああ…
ヒロキくん…ヒロキくぅん…ふぁああ…

凛とした姿で教壇に立つ、あの優雅で理知的な先生が、
俺を完全に受け入れ、俺の前で乱れた姿をさらけ出してくれる。
びゅっ…
びゅっ…
びゅるるっ…
ガクガク
とぷとぷ…
はぁあ…♡
びくっ
ゾクッ
んぁっ…♡
ゾクッ
ふぁああ…♡
びくっ
もう何度抱いても
抱き足りない…
こんな最高の女性を
恋人に出来るなんて、
今でも時々、これは
夢なんじゃないかと
疑ってしまう。

はぁあぁあッ♡
あっ…！
んはっ!!
ずぬッ
ずちゃッ
ぬちゃッ
びくっ
びくんっ
ぐっ…
ま、待ってぇ…！
ひ、ヒロキくん…！
ひいっ…!!
やっ！はひっ!!
らめっ…らめぇ…!!
がくがく

はあっ…先生…
ヒ、ヒロキくん…！イ、イッちゃったから…！私イッちゃったからぁ…!!
ダメ…！動いちゃダメェ…!!ひいいいっ…!!
ぬちゃっ
ぬぷっ
ぬるるっ
きゅんきゅんっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

イッたばかりで敏感になっている先生の膣内を俺のチンコでゆったりと優しく、小さく、そして意地悪く刺激を与え続ける。
ぬりゅう…
ぬりゅうう…
キュン
キュン
ぴくん
ぴくん
ぴくん
先生…もっともっと気持ち良くなって下さいね…エリ先生…
ひっ、ヒロキ、くんッ!!うっ！うあっ！あああああっ!!
はぁあぁ♡
ガクガク
ビクッ♡
ビクッ♡
ひぐ♡
あぐ♡

んはぁあああああッ!!
ああああッ♡
ビクッビクッ
きゅうう
ビクッビクッ
ビクッビクッ
ピクピクと小さく痙攣していた先生の身体が、
一瞬ビクン！と大きく仰け反り
そして膣内がきゅうきゅうと締め付けられる。
先生はまたイッてしまったようだった。

自らの嬌態の全てを教え子の俺の前にさらけ出し、蕩けた表情で余韻に浸っている先生の姿に俺の中で物凄く欲情が掻き立てられてしまい、イッたばかりの先生を今度は激しく突き始めた。

ビクッ
はぎっ!? ひゃッ!!
ひやぁあああッ!!
はああッ
ひ、ヒロキ、くっ!!
はひいいッ!!
ぅあああッ!!
ビクンッ
はああああああッ!!

先生ッ！
エリ先生ッ!!
ヒ、ヒロキッ、くッ！
あっ！ひっ!!
あひいいっ!!
ヒロキくん…ッ！
ひいいいッ…!!
やっ!!
やめっ…ひっ…！
あああッ…!!
ひいッ!!
ズッ
ズッ
ズッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

先…生…ッ!!
ズンッ
ビュッ
ビュッ
ビュルルッ
ぞくぞくッ
あああああ♡
んはあああぁ…!!
ビク
ビク
ビク

うおッ……！
おっ……
うぁっ……!!
ぶるぶる
ぶるぶる
ぶるる
あッ……♡
はッ……♡
はぁぁっ……!!
ぁぁっ……
ふぁぁッ……!!
ぁぁっ……
あ、熱っ……
ぁぁぁっ……
ぴくぴく
ぴくぴく
ぴくん
ドプッ
ドプッ
びゅるッ
びゅるッ
びゅるるっ
びゅッ

は…あ…
はあっ…
ねとお…
ずるっ…
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ドロォ…
は…あんっ…
ヒロキ…くん…
ぁぁぁ…
はぁぁぁ…
は…っ♡
ふぅ…♡
はぁふぅ…♡

ビクッ
ビクッ
はっ…はあっ…先生…
こぽっ…
こぽぽっ…
ひくひく
はぁ…はぁ…まったく…また学校で…こんなに…激しくしてくるなんて…もう…
はっ…はぁ…す、すいません、先生…
はぁ…
はぁあ…
ぞくっ
ぞくぞくっ
ビク…
ビク…
ビクン…
ビク…

ビクッ
ビクッ
ヒロキ君には…少し…教育的指導が…必要みたいね…
ぬろぉ…
ビク…
どろ…
ピク ピク…
先生…
週末は…また…私の家に来なさい…良いわね…?
ビクン…
はぁあ…♡
ゾクゾク
んはぁあ…♡
ゾクッ
ふるふるっ…
はい…先生…
ビク…

そして週末…

あっ…

は…あ…
あぁ…

せ、先生…!!

ダメよ…？
ヒロキくんは…
動いちゃ…ダメ…
んっ…！

先生…ッ！
でも俺…
くッ…!!

私が動くから…
ヒロキくんは…
動いちゃダメ…！
んんっ…!!

先生が俺の上に跨り、上下に身体を揺らしている。
もっと刺激が欲しい俺の気持ちを
知った上で、先生は俺の上でわざと
焦らすようにゆっくりと動く。

ぴくんっ
ぴくぴくぴく

先生の言いつけ通り今まで動かずに耐えて来たが
イキそうでイかせてもらう事が出来ないまま
焦らすように快楽を与えられ続け、
俺はもう我慢の限界だった。